本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

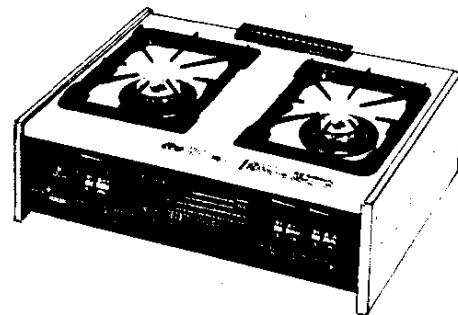
支社名	〒	所在地	電話
本社ガスビルサービスセンター	〒541	大阪市東区平野町5－1	☎大阪 06(202)2221
南支社	〒557	大阪市西成区玉出東2－9－41	☎大阪 06(652)0001
北支社	〒532	大阪市淀川区十三本町3－6－35	☎大阪 06(301)1251
堺支社	〒590	堺市住吉橋町2－2－19	☎堺 0722(38)1131
北摂支社	〒569	高槻市藤の里町39－6	☎高槻 0726(71)0361
阪神支社	〒662	西宮市和上町4－11	☎西宮 0798(26)3101
東部支社	〒578	東大阪市稲葉2－3－17	☎河内 0729(62)1131
京阪支社	〒573	枚方市西田宮町16－17	☎枚方 0720(41)1251
神戸支社	〒650	神戸市中央区相生町5－13－10	☎神戸 078(576)5231
京都支社	〒604	京都市中京区烏丸通御池角	☎京都 075(231)8151
奈良支社	〒631	奈良市学園北2－4－1	☎奈良 0742(44)1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町1－1－1	☎和歌山 0734(31)2481
姫路支社	〒670	姫路市神屋町4－8	☎姫路 0792(85)2221
東播支社	〒675	加古川市加古川町粟津29－1	☎加古川 0794(21)1801
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町6－57	☎豊岡 07962(3)2221
湖南支社	〒525	草津市追分町字荒堀680－1	☎草津 0775(62)5311
彦根支社	〒522	彦根市大東町12－11	☎彦根 0749(22)3131
(長浜営業所	〒526	長浜市南呉服町3－4	☎長浜 0749(62)7171)

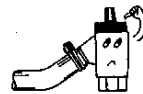
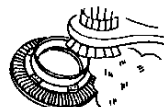
その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社

ガステーブルコンロ
取扱説明書 10-851型

保証書付

型式名 RSU-3GC-2A

ガス器具をお使いになるときのご注意

ガスゴム管も
ときどき点検
よいゴム管を
カッチリと

ガス器具を
お使いになった
あとは必ず
もとコックも
閉める習慣を

毎日使う
ガスコンロの
バーナなど器具も
ときどきお手入れを

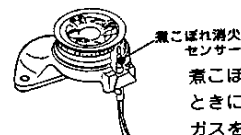
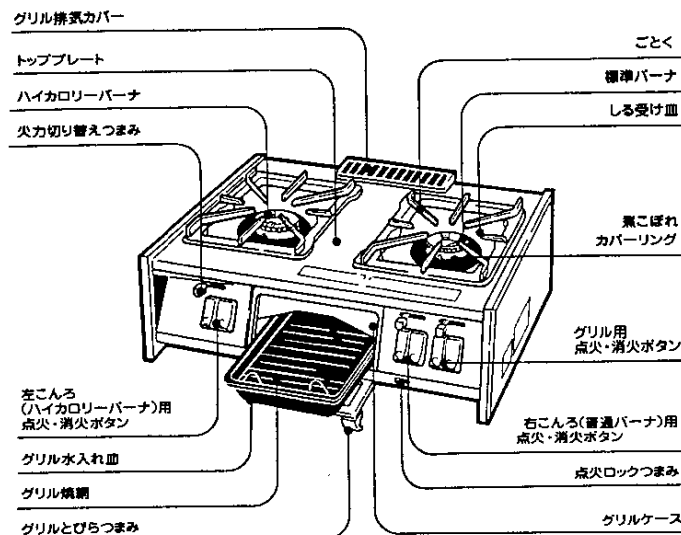
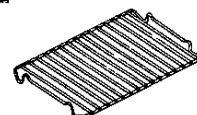
ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合せください。

ごあいさつ

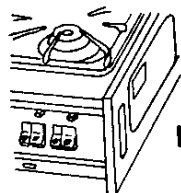
このたびは、大阪ガスのガステーブルコンロをお求めいただきありがとうございました。別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保存してください。

もくじ

各部の名称

特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

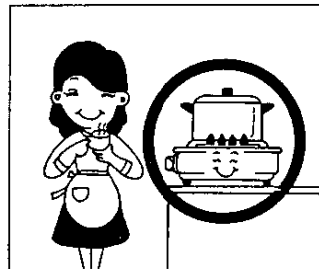
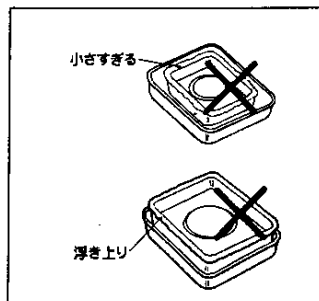
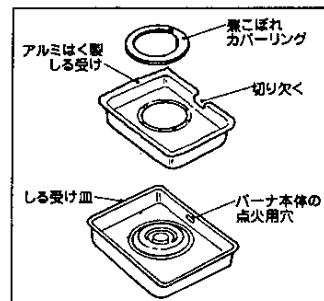
使用ガスについてのご注意

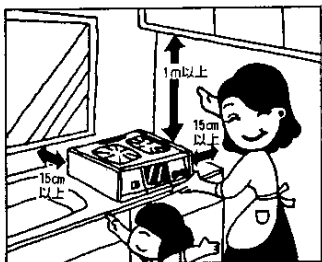
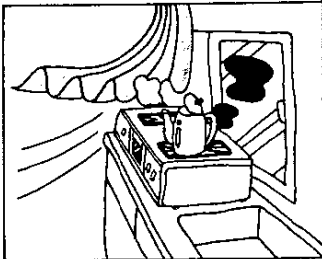
●ガスの種類を確かめてください。
ガス器具本体の右側面にはってある銘板（ラベル）に表示のガスの種類とお宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。

●ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。
●転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

用途についてのご注意

●調理以外の用途（炭・練炭おこし・衣類の乾燥など）には使用しないでください。
過熱・異常燃焼などによる焼損・火災などの危険があります。

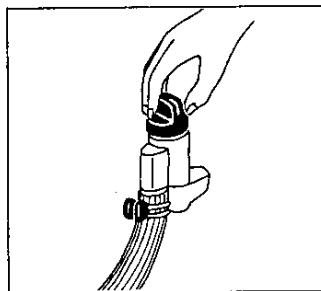
市販の補助用具使用についてのご注意

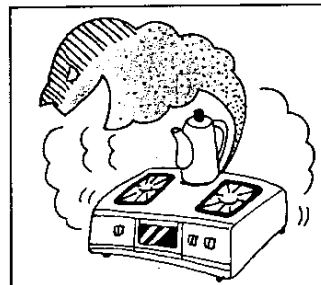
●極端に大きな鉄板やなべ、熱を逃がさないようにするためのなべ枠、または不良の補助用具などで炎をふさいで使うことはさけてください。
不完全燃焼をおこしたり、器具を異常に過熱し危険です。

●しる受け皿の上に市販のアルミはく製しる受けを敷いてお使いになる場合は、しる受け皿に十分なじむようにしてお使いください。
●アルミはく製しる受けの穴は煮こぼれカバーリングの穴より少し大きめにあけてください。
●アルミはく製しる受けを敷いた上から煮こぼれカバーリングを取りつけてください。
●バーナの横側にあいている穴は点火用の穴ですから、アルミはくの端などで絶対にふさがないようにしてください。点火不良の原因になります。

使用場所についてのご注意

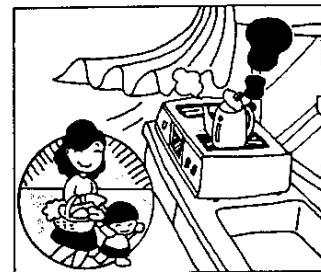
- 強い風の吹き込む所では使用しないでください。
  炎が風で吹き消えることがあります。
- カーテンや、燃えやすいものの近くでは使用しないでください。
  燃え移る危険があります。
- たなの下など、落下物の危険のあるところでは使用しないでください。
- テーブルコンロの周囲が木材のような可燃性の壁面の場合は、過熱を防ぐため左右及び後面ともに15cm以上、上方は1m以上離してお使いください。
- 上記の距離がとれない場合は、必ず別売の防熱板を取り付けてください。
  壁が長期間加熱されると比較的低温でも自然発火することがあります。

使用上のご注意

ガス漏れ予防

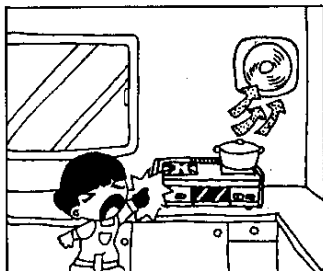
- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。
  ビニール管は弾力性がなく、熱にも強くありません。
- ゴム管は良質のものを用い、ときどきとりかえてください。（おとりかえの目安は約3年です）
  ゴム管が古くなりますと，ガス元せんや器具のホースエンドから抜けやすくなったり、ヒビ割れしてガス漏れの原因になり危険です。

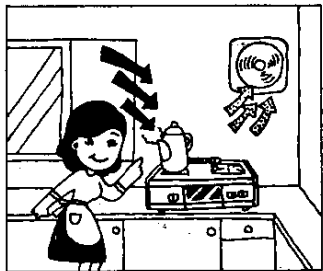
- 器具をご使用にならないときや外出前、またおやすみ前には万一の事故がないように、必ずガス元せんを閉めてください。
- 使用中は決して外出しないでください。
  カラ焚きになるなど思わぬ事故の原因になります。
- 使用後は必ず消火ボタンを押し、消火したことを確かめてください。
- 使用中はときどき正常に燃焼していることを確かめてください。

火災予防

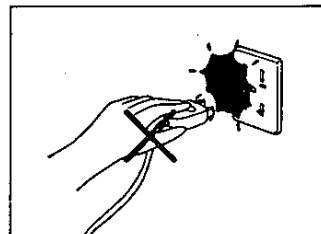
- グリル使用中はグリル排気カバーの上に物をのせないでください。
  不完全燃焼や異常過熱の原因になります。
- 器具の上やそばに燃えやすいもの（紙、カーテン、家具、揮発油など）を絶対においたり近づけたりしないようにしてください。

外出などについてのご注意

- 火をつけたまま就寝、外出は絶対にしないでください。カラ焚きになるなど思わぬ事故の原因となり危険です。
- 天ぷらなど油料理の場合は、火をつけたまま場所を離れたり、加熱しすぎないようにしてください。
  温度が上りすぎると、油が自然発火し、火災の原因となります。

やけどのご注意

● ご使用中および使用直後は、器具本体とその周辺は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。特に小さなお子様がいるご家庭はご注意ください。
またグリルをお使いになるときは、グリル排気カバーから高温の排気熱が出ますので、顔などを近づけないでください。

● ご使用中グリル水入れ皿を出し入れされるときは、必ず付属のグリル用取手をお使いください。
ぬれふきんなどで持つとやけどするおそれがあります。

換気のご注意

● ご使用と同時に換気扇を回すなど換気にご注意ください。
ガスが正しく燃えるためには、ガスの6～10倍もの空気が必要です。しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。

ガス事故防止

● ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、窓や戸を全部あけて、大阪ガス支社または大阪ガスサービスステーションに連絡してください。

〈ご注意〉
万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり換気扇その他の電気器具にふれたりしないでください。（スイッチの入・切や電源プラグの抜き差し等）火や火花で引火し爆発事故を起こすことがあります。

異常時の処置

● ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず、直ちにご使用を中止（消火ボタンを押し、ガス元せん閉止）して十分な点検をお願いします。
〔故障・異常の見分け方と処置方法については21ページをお読みください〕

日常の点検・手入れ

● 器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、手入れは必ず行なってください。（詳しくは18ページをお読みください）

● 故障又は破損したと思われるものは使用しないでください。不完全な修理は危険です。

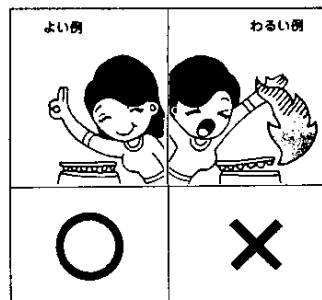
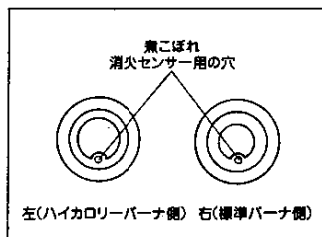
● 万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。

器具の設置

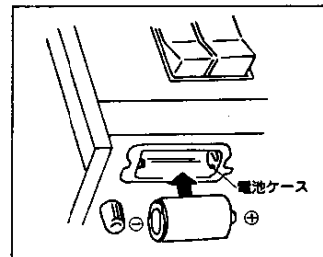
設置前の準備と確認

- 各部分のあて紙や包装部品を取り除き、〝各部の名称〟のように正しく組立ててください。
- 器具銘板の表示ガス(ガスグループ)とご使用になるガスとが一致しているかご確認ください。

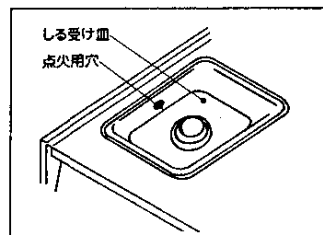
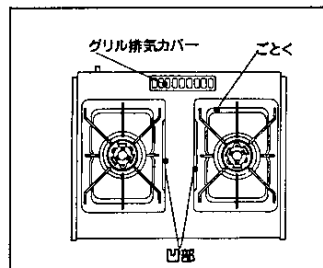
部品の取り付け

- バーナトップはギザギザが下になるようにはめ込んでください。またバーナ本体より浮き上らないように2～3回バーナトップを回して確実にはまっているか確認してください。
  大きい方(ハイカロリーバーナ)が左側、小さい方(標準バーナ)が右側です。

- 煮こぼれカバーリングもバーナトップと同様、左右異なります。内径の大きい方が左(ハイカロリーバーナ側)、小さい方が右(標準バーナ側)です。又、はめ込む時はカバーリングの穴に消火センサーを正しくはめ込み浮き、傾きのないようにしてください。

器具の設置②

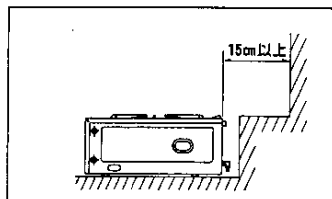
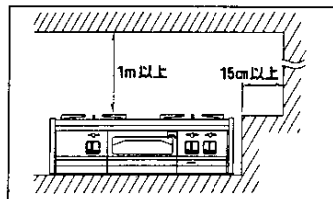
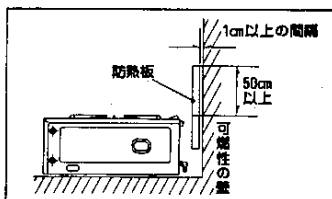
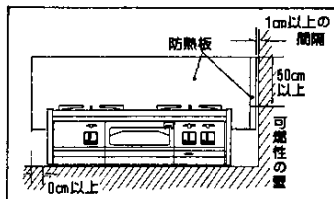
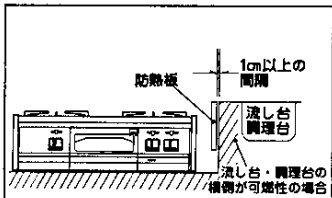
- 点火用の電池は電池ケース(器具前面左下にあります)にはめ込んでください。電池は単1(1.5V)1個使用です。

《ご注意》
- 乾電池が消耗してきますと点火しにくくなります。「パチパチ」という放電間隔が長くなりましたら早目に新しい乾電池にお取り替えください。

部品の取り付け

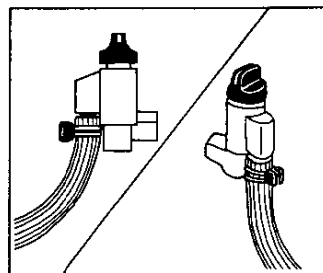
- トッププレートは本体に正しくのせてください。

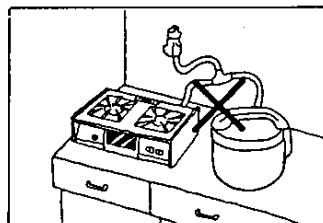
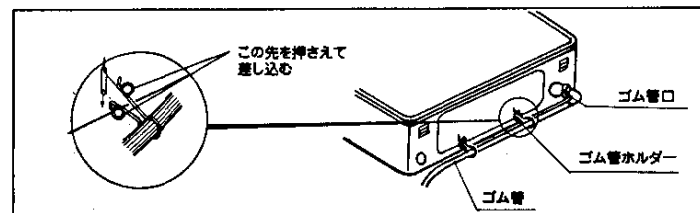
- しる受け皿は点火用穴が外側になるように正しくのせてください。

- ごとくは凹部が内側になるように正しくのせてください。
- グリル排気カバーは前方に傾斜がくるように乗せてください。

器具の設置③

設置上のご注意

●丈夫で水平なガス台上に設置してください。
●耐久性などの点からできるだけ湿気のないところを選んでください。
●周囲に可燃物(木製の壁、たななど)のある場合
・トッププレートより上の側面及び背面は木製のような可燃性の壁から15cm以上離してください。可燃性の壁にステンレス板などを張ってある場合も同様です。また上部は器体上面から1m以上離して使用してください。
(火災予防条例で定められております)

●可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から15cm以上離して設置できない場合
・図のように必ず別売の防熱板を取り付けてください。(15-100-0084～8)

●可燃性の壁面の高さが50cm以下の場合は図のように取り付けてください。

器具の設置④

ゴム管の接続

●ゴム管は赤線まで差し込んでしっかりと止めてください。
・9.5mmφ(内径9.5mm)のゴム管を使用し、ガス元せん・器具のゴム管口とも赤線まで十分差し込んで、ゴム管止めでしっかり止めてください。
ゴム管止めでしっかり止めていないと、知らずにはずれかかってガス漏れが生じることがあり危険です。

・ゴム管はガス用ゴム管を用い、折れたりねじれたりしないようできるだけ短かくし、また器具の下を通したり、器具に触れないようにしてご使用ください。

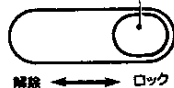
・ゴム管の継ぎたしおよび二又分岐はしないでください。

・ゴム管が器具後部を横切る場合は、付属のゴム管ホルダーにゴム管を通し、図のように器体後部の穴に差し込んで固定してください。

使用手順

はじめてお使いのとき

- はじめてお使いになるときは、必ずグリル水入れ皿に水を入れ、換気をしながら12〜15分のから焼きをしてください。油を焼ききるためで、煙が出ても異常ではありません。

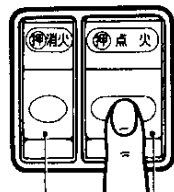
点火前の準備と確認

- 点火ロックつまみを左へスライドして解除の位置にしてください。

《ご注意》
点火ロックつまみは左・右こんろ、グリルともすべてが消火の状態で操作してください。
左・右こんろ、グリルの中で一つでも点火の状態にあるとロック操作ができません。

- 器具の近くに紙、プラスチック、油類など燃えやすいものが置いていないことを確認してください。
- 消火の状態を確かめてから、ガス元せんを全開にしてください。
- グリルをお使いになるときは、グリル水入れ皿に水(コップ1杯強 約200cc)を入れてください。

点火(こんろ部・グリル部)

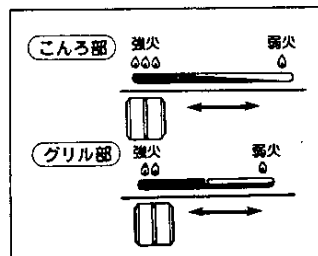
- 点火ロックつまみが解除してあることを確かめてから点火ボタンをいっぱいに押してください。
- 「パチパチ」と放電してバーナに点火します。バーナへ火移りしたことを確かめてから手をはなしてください。
- グリル部のみ左右のバーナへ火移りしたことを確かめてから数秒間(煮こぼれ消火センサーが働くまで)そのまま押し続けてください。

《ご注意》
しばらく使わないで点火するときはゴム管内に空気が入って点火しにくいことがあります。この場合は空気が抜けるまで数回点火操作を繰り返してください。

① 押して
② 「パチパチ」と放電してバーナに点火
③ 手をはなす

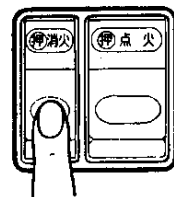
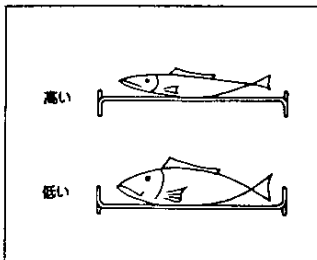
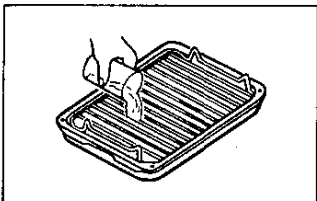
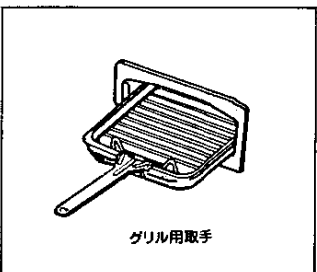
空気調節

- 空気調節の必要のない構造になっております。点火したらそのままお使いください。

火力調節

- 火力切り替えつまみを「強火」と「弱火」の間でゆっくり操作してください。

消火(こんろ部・グリル部)

- 消火ボタンを押してください。点火ボタンがもどって消火します。

《ご注意》
- 必ず火が完全に消えたか確認してください。
- 消火後すぐにご使用になる場合は、数秒程まってから点火してください。
- 長時間使用されないとき(就寝時、外出時など)は、必ずガス元せんも閉めてください。
- 消火直後は火傷のおそれがありますので器具に手を触れたり移動させないでください。

グリル部の使い方

●グリル水入れ皿はグリルケースの底におき、奥にあたるまで入れてお使いください。
●グリル焼網はグリル水入れ皿の中に入れてお使いください。
●グリル焼網は足の高さが変えてありますので、焼物の種類・大きさにより高い低いのいずれかにしてご使用ください。大きい魚などを焼くときは低い方にしてご使用ください。

●グリル使用時は必ずグリル水入れ皿に水を入れてください。（コップ 1杯強約200ccが適量です）
●グリル水入れ皿に水を入れる場合は、一旦グリル扉をあけ、グリル水入れ皿をグリル用取手で少し引き出してからコップなどで入れてください。

グリル用取手

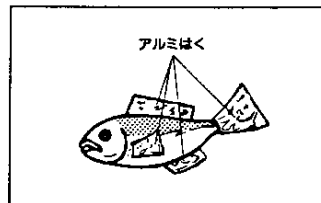
●焼物はグリル焼網に合った大きさに切り、グリル焼網にのせて焼いてください。
●グリル焼網はかならず附属のグリル用取手で、グリル水入れ皿といっしょに出し入れしてください。

上手なグリルの使い方

●予熱

・表面のこげやすいもの（つけ焼き・照焼き・かす漬けなど）や、火の通りの悪い魚などは予熱しないでそのまま焼いてください。
・それ以外の魚や肉は、点火後3分～5分は予熱し、庫内の温度が上がってから材料を入れてください。またこの際グリル焼網にサラダ油を塗って同時に熱しておくと材料がくっつきにくく、きれいに焼き上がります。

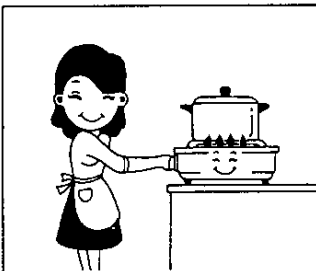
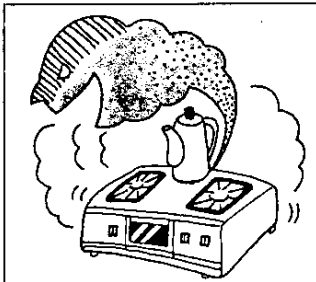
●魚焼きのコツ

1．魚は水洗いしたらよく水をふきとってください。
2．こげやすい部品やヒレなどには厚目に塩を振りかけておくか、アルミはくで包んでおくとこげ方が少なくなります。
3．一般に、塩を振ったらすぐに焼いてください。塩がしみ込みすぎると材料の風味がなくなり、塩っぽくなります。
4．魚はほどよい焼き色になったら裏返して焼き上げ、そのまま盛りつけてください。（裏面は表面より早い時間で焼き上がります）

●グリル使用中は必ずグリル扉を閉じてください。

●続けてグリルを使用する場合は、グリル水入れ皿の水がなくなっていないかたしかめてください。水がなくなると煙が出たり、グリル水入れ皿にたまった脂が燃えることがあります。
水を補充したりする場合、熱い扉ガラスに水がかからないようにご注意ください。扉ガラスが割れることがあります。

使用時のご注意

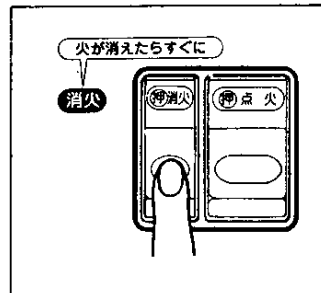
●煮こぼれはバーナや器具を早くいためますのでご注意ください。（一度煮たったら、沸騰がつづく程度の火力にしてご使用ください）
煮こぼれしたときは、必ず完全にふきとってください。
煮こぼれで炎口がつまると炎が逆流して、器具の内部で燃えるおそれがあり危険です。

●点火の際は、こんろになべやヤカンをかけて点火し、全部の炎口に点火したことを確かめてください。

●グリル使用中、グリル排気カバーの上に物をのせないでください。
不完全燃焼や異常過熱の原因になります。

●炎の形や色の変化に気をつけてください。炎が異常に大きかったり、ふぞろいで音をたてたりすることがないようによく見てご使用ください。

煮こぼれ消火センサーについて

●煮こぼれ消火センサーは煮こぼれや風などで火が消えた時にガスを自動的に止める装置です。
●こんろ部に付いている煮こぼれ消火センサーは点火時に数秒押し続ける必要のないクイックセッター方式です。
点火及び火移りを確かめればすぐ手を離しても大丈夫です。グリルはクイックセッター方式ではありませんので、左右のバーナに点火後火移りしたことを確かめてから点火ボタンをそのままの位置で数秒間押し続けてください。

《ご注意》
●乾電池が消耗するとクイックセッターが働らかなくなります。
「パチパチ」という放電間隔が長くなりましたら早めに乾電池を新しいものに取りかえてください。
●点火時に手を離すと消火する場合は次のようにしてください。
電池が新しい時……………手を離す直前に一旦強く押しつけてください。
電池が消耗している時……電池を交換するまでの間は点火後3～5秒間ボタンを押し続けることによりお使いいただけます。

煮こぼれ消火センサーが作動したときの処置方法

●使用中バーナが消火したときは、すぐに消火ボタンを押しガス元せんを「止」の位置にもどし、21ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」及び、次の方法により処置してください。

●処置方法
・バーナの火が消えたときは煮こぼれ消火センサーが働いて自動的にガスが止まりますが完全に止まるまでに少し時間がかかります。（30秒～1分間程度）
バーナの消火に気づいたときは、すぐに消火ボタンを押し消火の状態にしてください。
・再点火される場合は、周囲にガスがなくなるまでしばらく（数分）待ってから「使用手順」に従って点火してください。

日常の点検・手入れ

点検・手入れの際のご注意

● 点検・手入れについては、下記の日常の点検以外は大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に依頼してください。
● 点検で異常を見つけられたときは、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に修理を依頼してください。
● 点検・手入れの前には必ずガス元せんを閉じ、器具が冷えてから行なってください。

点　検

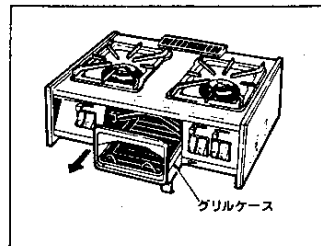
● 安全にお使いいただくためにときどき点検してください。

・ゴム管はガス用ゴム管を使用し、器具およびガス元せんともホースエンドの赤線まで十分差し込み、ゴム管止めで止めてありますか。
・ゴム管が器具に触れたり、折れたり、ねじれたり、熱気が当ったりしていませんか。
・ゴム管が古くなって、ひび割れしたり、差し込み口がゆるんでいるためにガスが漏れていないかときどき石けん水などで点検してください。
・器具の近くに、紙・プラスチック・油類など燃えやすいものを置いていませんか。
・バーナトップ、ごとく、煮こぼれカバーリングなどが正しくセットされていますか。
・バーナトップの炎口が煮こぼれなどで詰っていませんか。
・グリル水入れ皿に多量の脂がたまっていませんか。（脂がたまったまま使用しますと脂が燃えることがあります）

お手入れ

そのつど

● ごとく・煮こぼれカバーリング・トッププレート・しる受け皿・器体・グリル水入れ皿・グリル焼網・グリルケース

・そのつどお手入れしていただくのがいちばんです。煮こぼれなどの汚れは湿った布でふきとってください。液状の洗剤を布にふくませて汚れを落としたり、（器体の場合）、洗剤をふくませたナイロンたわしで洗っていただき（器体を除く場合）、お手入れ後はよくしぼった布で洗剤や水気を十分ふきとってください。
・グリルケースは簡単に引き出して掃除することができます。（引き出すときは前の方を少し持ち上げて引き出してください）

《ご注意》
・お手入れのとき、器体内部機構に水がかからないようにご注意ください。
・トッププレートはホーローですので固い物を当てたりしますと傷がつく場合がありますので注意してください。

● グリル扉

・ガラスに脂などが飛散した場合は、そのつどまだ暖いうちに汚れを落してください。

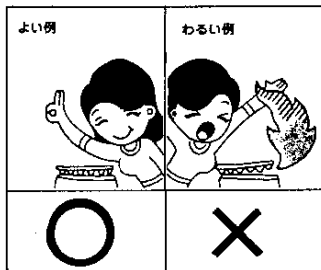
《ご注意》
・ガラスはミガキ砂や金属片、金タワシなどでこすらないでください。印刷がはげたり、キズをつけると割れる原因になります。

ときどき

● バーナ(こんろ用)

- バーナトップを取りはずし、ブラシやキリ状のもので掃除してください。
  目づまりなどで悪くなったバーナは、取り替えていつもきれいな状態で使用してください。
  バーナを目づまりさせたまま使用しますと、不完全燃焼をおこすことがあります。

《ご注意》

- バーナトップの水洗いはできるだけさけ、水洗いされた場合は必ず乾いた布で十分水気をとっておいてください。
- バーナトップは大きい方(ハイカロリーバーナ)、小さい方(標準バーナ)と左右で異なりますので外された場合、間違いのないように取り付けてください。
- バーナトップを取りはずされた場合は正しくセットしてください。(詳しくは8ページ部品の取り付けの項をお読みください)
- バーナ本体の水洗いはやめてください。
  中がさびる原因になります。

- **煮こぼれ消火センサーは固いブラシなどでみがかないでください。故障の原因になります。また煮こぼれなどはすぐふき取るように習慣づけてください。性能が十分発揮できないだけでなく、寿命も縮めます。**
- **点火操作の火花の出る部分はさわらないでください。取り付け位置が狂いますと点火しなくなります。また火花の出る先端に手をふれたまま、点火ボタンを操作しますと電気ショックを受けますからご注意ください。(ただし人体には害はありません)**
- **器具内の配線にはさわらないでください。**

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

現象 / 原因	ボタンから手を離すと消火する	点火しない・点火しにくい	点火用パイロットが消火しない	着火(火移)しにくい	爆発的に着火する	黄炎で燃える	炎が安定しない	異常な音をたてて燃える	使用中に消火した・消火しやすい	グリルの放熱体が十分赤熱しない	処置方法	参照ページ
ガス元せんの開け忘れ・開き不十分		○		○	○		○	○		○	消火の状態を確かめてからガス元せんを全開にする。	12
ゴム管内に空気が残っている		○									ガスが正常に出るまで十分注意しながら点火操作を繰り返す。	12
ゴム管の折れ曲がり・つぶれ		○		○	○		○	○	○	○	ゴム管の折れ・曲がりを直す。	12
点火装置の電極部の汚れ		○			○						汚れを拭きとる。それでも直らないときは点検を依頼する。	／
バーナ炎口づまり・空気口づまり				○	○	○	○	○	○	○	つまりを取り除く。それでも直らないときは点検を依頼する。	20
バーナの取り付け不良				○	○	○	○	○	○		点検修理を依頼する。	／
バーナトップの取り付け不良				○	○	○	○	○	○		正しく取り付ける。	8
点火操作が適切でない		○									「使用手順(点火)」参照。	12
点火ボタンがケースに接触			○								点検を依頼する。	／
点火装置のリード線の接続不良		○									点検を依頼する。	／
点火装置の故障		○			○						点検・修理・部品交換を依頼する。	／
器具の銘板と使用ガスが不一致		○		○	○	○	○	○		○	点検・修理を依頼する。	2
乾電池が消耗している	○	○									新品と交換する。	／
煮こぼれ消火センサーが作動	○								○		「煮こぼれ消火センサーが作動したときの処置方法」参照。	17
煮こぼれ消火センサーの故障	○								○		点検を依頼する。	／
器具せんのフィルターづまり		○		○					○		点検を依頼する。	／

処置方法や原因のわからないときは、お買い求めの販売店または大阪ガス支社へご連絡ください。

長期間使用しない場合

- 各部の汚れを取り除き、十分に乾燥したのちほこりなどの異物が入らないようにビニールをかけて、お求めになったときの箱に入れ、湿気やほこりの少ないところへ保管してください。特にガスの通路部分(ホースエンドなど)にはほこりが入って通路をつまらせないように注意してください。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

- 21ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。
- 確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買い上げの店またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。
  - (1) 品　名……(テーブルコンロ)
  - (2) 品　番……左側面に張ってあります。(例)
  - (3) 現　象……(できるだけ詳しく)
  - (4) 道　順……(できるだけ詳しく)

(N) 10−851 (U)
大阪ガス株式会社 04

転居される場合

- ガスには都市ガス14種類およびＬＰガスの区分があります。ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。この場合調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料修理となります。

保証書について

- **この器具には保証書がついています。**

このテーブルコンロは保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

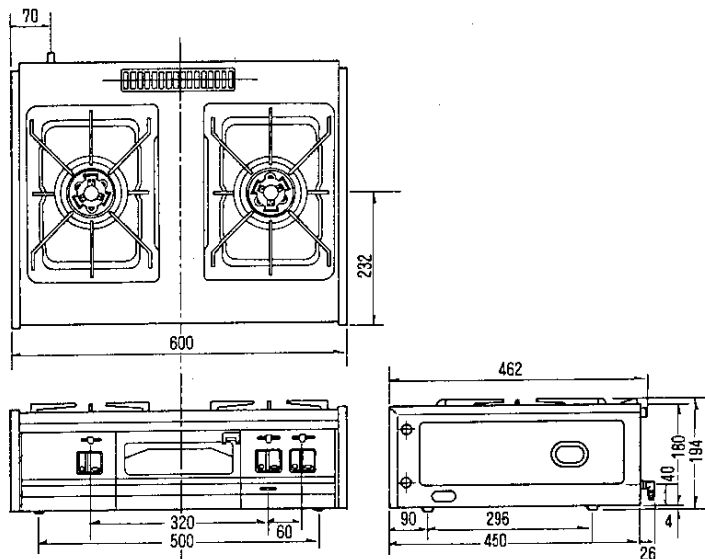
特　　長

1 点火は、押しボタン式の電池による連続スパーク点火方式ですので、点火操作が軽快で確実です。

2 煮こぼれ消火センサー付きですので、煮こぼれや風などでバーナの火が消えたときは、ガスを自動的に止めます。火が消えてから自動的にガスが止まるまでに、30秒〜1分程度かかります。

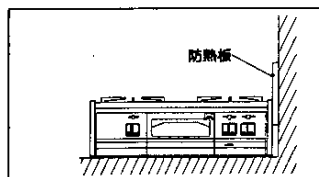
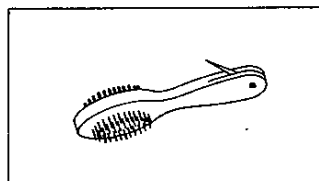
3 グリルバーナは赤外線バーナですので、焼物の芯まで美味しく焼くことができます。又、上火式のため煙がほとんど出ません。

4 煮こぼれカバーリング付きですのでバーナとしる受け部の間から煮汁が落ち込みにくくお手入れも簡単です。

外形寸法図

仕様一覧表

品　　名	10−851				
型　式　名	RSU−3GC−2A				
点　火　方　式	連続スパーク点火方式				
外　形　寸　法	高さ180mm(トッププレートまで)×幅600mm×奥行476mm				
重　量(本　体)	16kg				
使用ガス 使用ガスグループ	1時間当たりのガス消費量				ガス接続
	個別ガス消費量			全点火時ガス消費量	
	右こんろ	左こんろ	グリル		
都市ガス用 6C(kcal/h)	2,300	3,200	1,150	6,300	ガス用ゴム管 9.5mmφ
都市ガス用 6A(kcal/h)	2,000	2,800	1,150	5,700	
都市ガス用 13A(kcal/h)	2,300	3,200	1,150	6,300	
LPガス用(kg/h)	0.176	0.24	0.096	0.50	

別売部品のご紹介

次の様な別売部品を用意しています。大阪ガス支社、サービスステーション、サービスショップでお求めください。

● **防熱板**(コードNo.：15-100-0084〜8)
・設置場所で、可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から15cm以上離して設置できない場合、図のように取り付けて使用してください。

● **掃除ブラシ**(4)94-100
・バーナが目づまりしたときに掃除して、いただくと安定した燃焼が得られ、効率よく安心して使っていただけます。

おねがい

ガスくさいときはガス元せんを閉め、窓を全開にしてから(火気に注意して)大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。